

# みんなの童話

## あなたはだあーれ

きょうは、にちようび。

げんきなうさぎのぴよんこちゃん  
は、みんなとあそびたいと、はらっ  
ぱへでかけました。

すると、はらっぱのいりぐちに、

なにかがすわっていました。なかよ  
しのりすの、ぴつぴちゃんくらいで  
した。いろは、ねずみいろにも、く  
ろにもみえる、へんないろでした。  
かたちは、しかくでも、さんかく  
でもなく、まるでありません。

まるで、ねんどのかたまりのよう  
ですが、ゼリーのようにやわらかそ  
うに、みえます。

（なんだろう？）ぴよんこちゃんは、  
しばらくみていましたが、

「あなた、だあーれ」  
と、ききました。

なんだかわからないものが、ぬた  
りと、あしのほうに、ちかづいてき  
ました。

「きやー」

ぴよんこちゃんは、おおごえをあ  
げ、もりのほうへ、にげました。

もりのいりぐちで、はあ、はあ、

はあ、いきをしていると、りすのぴ  
つぴちゃんがききました。

「ぴつぴちゃん、いまへんなものを  
みてきたよ」

そういうと、ぴつぴちゃんも、

「わたしも、みてきたよ」

と、いいました。

「あれって、なんだろうね？」

「こえかけたら、うごいたよ」

ふたりがはなしているところへ、  
たぬきのぼんちゃんが、きました。

そして、ふたりのはなしをきくと、

「うごくなら、いきものだろう」  
と、いいました。

そこへ、くまのだいちゃんがきま  
しました。

「みんなで、みにいこうよ」

「うん、いこ、いこ」

と、そろってはらっぱに、でかけま  
した。

いました。さつきみたところに、  
あのへんなものは、いました。

「きみって、だあーれ？」

ぼんちゃんがききました。

へんなものは、ぼんちゃんのほう  
へぐるつと、うごきました。やつぱ

り、いきものようでした。

「なまえは、なんていうの？」

だいちゃんがききました。

へんないきものは、また、ぐるぐ  
るつと、うごきました。

「どこからきたの？」

ぴつぴちゃんがききました。する

と、「あつち」とでもいうように、か

らだを、よこにむけました。

「ことばが、わかるんだ！」



ぼんちゃんはそういつて、ポンポ

ンポンと、はらつみをつつと、へ

んないきものも、それにあわせるよ

うに、ぐにやぐにやうごきました。

「もしかして、ほくたちと、ともだ

ちになれるかもね」

と、だいちゃんがいいました。

「へんなかつこうしてるけど、わた  
したちとおんなじ、いきものね。で  
も、なんてなまえかねえ」

ぴよんこちゃんが、そういつたと

き、へんないきものは、まえよりも

おおきく、ぐにやりぐにやりとつこ

きました。

「なまえがないんだ。ぐにやりくん  
てよぼうか」

ぼんちゃんがいいました。

「きつと、かみさまが、なまえつけ

るのを、わすれたんだ」

だいちゃんがそういつたとき、へ

んないきものが、またうごきます。

それをみたぴつぴちゃんが、

「みんなで、いいなまえを、つけて

あげようよ」

と、いいました。

みんなは、さんせいしました。

「うちゅうじん」「ハヤト」

「タケル」

「それじゃ、つよすぎるよ」

「サトシ」「タモツ」「マコト」

いろいろな、なまえがですが、

なかなかいいなまえが、うかびませ

ん。それでいまも、みんなでかんが

えています。

おわり

しろやま会員

かたやま のぶこ